

城西小 学力向上の計画

1 研究推進校における取組

(1) 研究推進校

研究推進校	校長	学力向上コーディネーター
太田市立城西小学校	森 貞之	今井 真弓

(2) 研究課題及び具体的な研究内容

本校では、昨年度までに、どの子にも「できた！わかった！」という喜びのある授業改善に始まり、「学び合い」のある授業の工夫、既習の知識や技能を活用して考える「活用力」の育成、更には、「学ぶ意欲」にも視点をあてた研修を進めてきた。そして、それが“みんなで考え合う楽しさ”となって、一人一人の達成感や有能感を味わわせることにつながっていった。このような一人一人の“確かな学び”が6年間しっかりと積み上げられていくよう“学びをつなげる”取り組みを強化していくことが大切である。そのためには、今度も全職員が同じ方向を向き、「学びの環境」「授業力の向上」「家庭との連携」の3つの視点を組織的・継続的に取り組んでいきたい。

そして、校内研修（一授業・授業公開）を通し、自己の課題を明確にし、指導力を高め、教師としての資質向上に努めていきたい。

①組織的な取組による学習環境作り

- 学習の基盤作りである『城西小学校学習のきまり』（教師用）を年度当初に全職員で周知し、学期毎に見直し、共通理解のもと徹底して取り組んでいく。また、児童用『城西小学校学習のきまり』についても作成し、子どもに徹底できるようにする。
- 朝読書の時間、基礎練習の時間を校時表に位置付け、全児童が静かな環境の中で集中して取り組めるよう全校体制で取り組む。
- 『活用力を育てる授業作り』、『対話による言語活動』や『説明をつなげていく言語活動』を算数から国語や他教科にも広げ、一人一人の声や考えを大切に全員参加の授業を全教職員で目指す。
- 『支持的風土のある学級経営』を基盤とし、考え合い、気づき、発見する、知的好奇心を高める授業作りを行い、学びの中で、自然に『他者受容感』が生まれる人間関係づくりを構築していく。
- パソコンの教材ホルダーや教材室の整理をするとともに、質の高い教材については共有化を図ることで、効果的かつ効率よい指導ができるようにしていく。

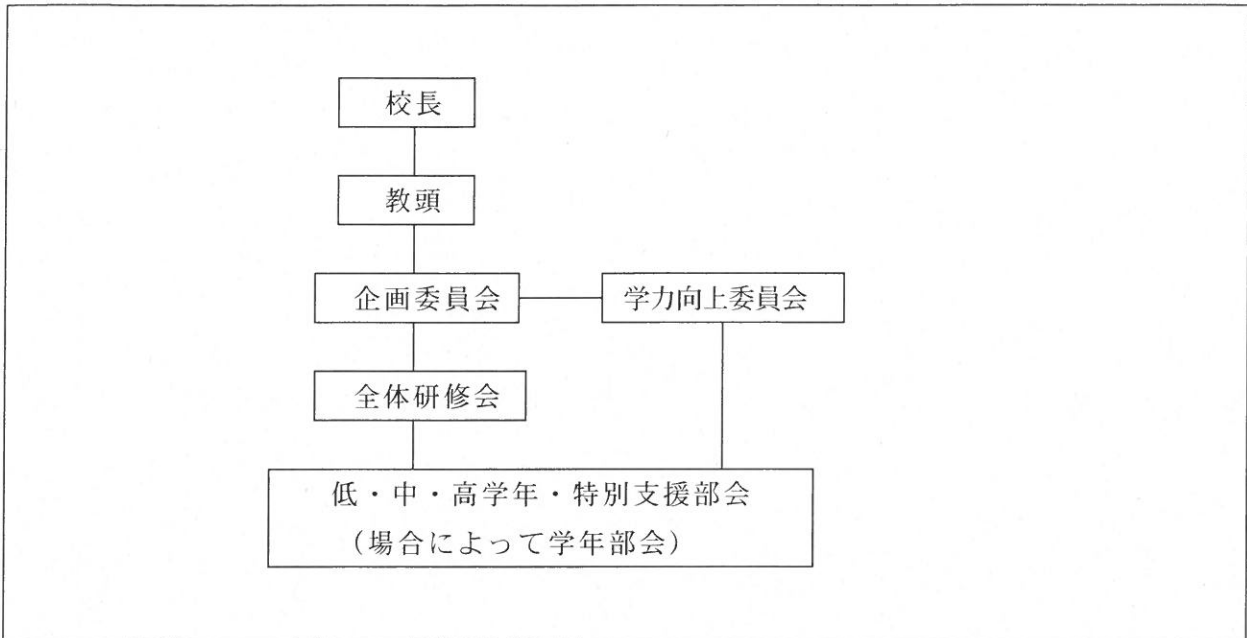
②ひとりひとりの授業力の向上

- 研究主題を基に個人テーマを設定し、『構想→中間報告→まとめ』の各段階でそれぞれで報告・検討し合いながら教師一人一人の力を鍛えていく。
- 仲間や先進校の授業映像を見合ったり、ミニ講座・模擬授業を行ったりしながら、授業の見方や指導方法（学習規律・机間指導の目的・自発性を促す発問・言語活動・板書等）を学び合う。
- 各教師が『一人一授業』を年2回行い、初任研の『示範授業』を他の教師にも公開することで、授業を参観する機会を多く用意していく。
- 児童が書いたノートを見合う機会を学期毎に設け、指導の工夫や児童の変容等を話し合いながら、発達段階や学年の実態に合ったよりよいノート作りに向けた指導を行っていく。
- 自立解決で児童の解決方法を見取り、ねらい達成に向けた集団解決の目的を具体的に持つことで、効果的な練り上げにつながるようにしていく。
- 適用問題を工夫し、本時のねらいの達成状況を確認しつつ、課題解決力を高めることができる問題の精選し、個別支援に生かす手立てとしていく中で、学習の内容の定着や発展的・応用的に考える力の育成を目指す。
- 4～6年は、理科免許をもった教員の専科が指導し、授業において観察・実験を充実させる中で、知識・技能の習得とともに、科学的な見方や考え方を育成する。そして、教科担当制の拡大に向けた実践に取り組んでいく。
- 6年生は教科担当制を導入し、専門性を生かした指導をする中で、児童主体のより質の高い授業で子どもたちの学習への関心・意欲を含めた学力向上を図るようにする。また、一人一人の子どもをより多くの目で見ること、発達段階に応じて生じる悩みや不安に対応できるようにする。

③家庭との連携

- 各学年の発達を考慮して作成した『家庭学習のすすめ』『家庭学習の手引き』を見直し、家庭学習の質を高める研究をする。そのため、“共に育てる”という意識をもって、家庭への協力を仰いでいく。
- 『自学ノート』により、その日の学習を振り返り、学習内容の定着を図っていく。また、一人一人に自信をもたせるようなコメントに心がけ、児童の「自分の力を伸ばしたい」という気持ちを引き出していく。
- 個別指導が必要な児童は、家庭との連絡を密にしながら、放課後、長期休業等を利用して補充指導を行う。
- 子どもの学習の成果を通信や連絡帳等で積極的に保護者へ伝え、信頼関係を築くことでお互いが協力して子どもの学力を高めていけるようにする。

(3) 研究組織（学力向上委員会等）



(4) 研究計画

1 学期

- 今年度の研修主題・内容・組織・計画・個人研究や指導案の形式等を話し合う。
- 学びの基盤作りの共通理解を図る。
- 昨年度までの研修の確認・算数指導等についての共通理解を図る。
- 個人研究構想を検討し合う。
- 指導主事訪問に向けて、指導案検討や模擬授業を行う。
- 一人一授業や研究授業（6月1日：代表授業）を行い、研究会を開く。
- 全国学力・学習状況調査実施（6年）
- 学力テスト（理科）実施（4～6年）

夏季休業

- 本校職員によるミニ講座を開く。
- 各時間で育てる数学的思考力・表現力について研修を行う。
- 2学期の研究授業に向けて、指導案を作成する。
- 国語科の単元構想（説明文）の見直しをする。
- 個人研究中間検討会を行う。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析をする。
- 学力テスト（理科）の結果分析をする。

2 学期

- 夏季休業中の校外研修についての報告。
- 指導主事訪問に向けて、指導案検討や模擬授業を行う。

- 一人一授業や研究授業を行い、研究会を開く。
- 「確かな学力」推進校授業公開・実践発表会を行う。

3 学期

- 学力テスト（国・算）実施（1～6年）
- 学力テスト（国・算）の結果を分析する。
- 個人研究のまとめを行う。
- 一年間の研修内容を紀要にまとめる。
- 今年度の反省・次年度の方向について話し合う。